

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和5年度事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1)芸術文化振興事業

①市民文化事業への支援事業						
1	持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業	通年	—	35,950	35,950	市補助金 35,950
	未来に向けた文化芸術の新たな価値の創出や地域の文化芸術環境の発展を目的とし、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人々の暮らしの課題解決に寄与する取り組みを支援するため、高い独自性、公益性、波及力を持つ事業に対して助成する。実施にあたっては、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から広く公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、採択事業を決定する。					イベント・発信型: 30～40件程度 プロジェクト型: 5～10件程度
2	支援・助成・協力事業	通年	—	22,290	21,442	市補助金 21,442
	市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力をを行う。 ① 支援事業 :ウェブサイトにて市民企画事業の告知を掲載し、広報支援を行う。 ② 助成事業 :仙台市の文化芸術の振興と普及啓発及び郷土の歴史継承を推進するため、市民自らが行う公演・展示・上映等の経費の一部を助成する(「公演・展示活動助成事業」)。年2回公募。 ③ 協力事業 :特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力等を行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋等の協力をを行う。					支援:約150件 助成:約150件 協力:約70件
3	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。					
②公演事業						
4	宝塚歌劇雪組全国ツアー 宮城公演	9/13～14	名取市文化会館	30,606	41,840	入場料等 41,040 協賛金 350 その他 450
	東北の中核都市圏としてニーズの高い宝塚歌劇の公演を継続する。これまで親しまれてきた会場の仙台銀行ホールイズミティ21が、令和4年度から改修工事で2年間完全休館中のため、年1回の公演継続のために、令和4年度に引き続き実績のある名取市文化会館を会場とし、公益財団法人名取市文化振興財団に共催の協力を得て実施する。					入場者:5,000人
5	仙台クラシックフェスティバル2023	9/29～10/1	日立システムズホール仙台、太白区文化センター	69,571	65,471	市負担金 26,856 入場料 30,570 協賛金他 8,045
	事業団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、クラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。当年度で17回目を迎える。当年度も仙台銀行ホール イズミティ21が休館中のため、日立システムズホール仙台と太白区文化センターを会場に、3日間で68公演を実施するほか、仙台市内のより多くの地域を会場として、8月下旬～9月中旬に関連企画を開催する。また、前年度に初めて実施した、発達障害や身体的な特性等により、静かに鑑賞することが難しい人でも安心してクラシック音楽を楽しめる「せんくら・リラックス・コンサート」も引き続き実施する。					入場者: のべ22,000人
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。 ・コンクール入賞者と仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバー等とのアンサンブル、仙台・宮城出身アーティストの公演等、当事業団ならではの企画をより多く盛り込み、クラシック音楽で街の賑わいを創出する仙台ならではの音楽祭とする。 					「せんくら・リラックス・コンサート」は8.劇場・音楽堂等機能強化推進事業に予算計上

6	もりのみやこのふれあいコンサート	12/7	日立システムズホール仙台	3,616	3,616	市補助金 3,616
<p>障害のある方とご家族・同行者の方等にオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催するコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えている。仙台市立中学校の特別支援学級の生徒の招待も実施している。事前申込・無料で、仙台市及び仙台フィルと共催。 当年度は、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 コンサートホールを会場に実施する。</p>						入場者:800人
7	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,130	0	
<p>放送局・文化芸術団体等が行う公益性の高い文化事業を共催し、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する。当年度は、仙台青葉能、人形浄瑠璃文楽、仙台オペラ協会第47回公演、第60回宮城県芸術祭、仙台短編文学賞等を共催する。</p>						

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

8	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	101,749	95,174	市負担金 46,486 入場料等 9,424 助成金 38,564 その他 700
<p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台的発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共催で実施。</p> <p><普及啓発事業></p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7月、9月、10月の3期 コンサートホール):新型コロナウイルスの影響で、3年にわたり学校訪問型で行ってきたが、当年度はホールでのフルオーケストラ演奏会の実施を目指す。止むを得ず代替企画となる場合でも、市内小・中学生への教育効果を維持したプログラムの立案・実施に努める。</p> <p>②日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(11/24～25 全館):3年目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成する。各部屋の利用促進を図るため、ふだん利用しない層に足を運んでもらえるような企画を用意する。公募ステージを継続させ、仙台を拠点に活動するアーティストによるプロデュース企画にも力を入れる。</p> <p>③ダンスのいりぐちプログラム:乳幼児親子・多世代が参加できるコミュニティダンスのワークショップを実施。体験するだけでなく、コミュニケーションを通じた作品づくりに主体的に参加できる人材を育成しながら、最終的に成果発表会を実施する。</p> <p>④仙台おどりラボ:参加者同士の対話を促しながら、身体表現についての講義と鑑賞を織り交ぜたワークショップを実施。「からだメディア研究室」との共催。</p> <p>⑤せんくら・リラククス・コンサート:発達障害や身体的な特性等により、静かに鑑賞することが難しい人でも安心してクラシック音楽を楽しめるコンサートを開催する。(再掲)</p> <p><公演事業></p> <p>⑥仙台フィルと茂木大輔が贈る 名曲をとことん「味わいつくす」シリーズ ～第1回「田園」～(11/10 コンサートホール):ベートーヴェン作「田園」にちなむ様々な曲の紹介、時代背景、ヨーロッパにおける田園の意味合い等の解説とともに「田園」交響曲を全曲演奏する。</p> <p>⑦仙台フィル「コラボレーション」シリーズ オーケストラとバレエの世界(1/14 シアターホール):仙台のバレエ団体「ハイパーウインド仙台」とのコラボレーションで、オリジナルのバレエの魅力と、新たな振付による「展覧会の絵」組曲全曲を演奏。</p> <p>⑧名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」vol.30 ～三大交響曲の輝き～(2/23 コンサートホール):仙台フィルハーモニー管弦楽団創立50周年となる当年度から仙台フィル指揮者に就任する太田弦の指揮で、スタンダードな交響曲を解説付きで演奏。</p> <p>⑨シアターホール創造拠点事業「Atoa.創作公演」(1/28 シアターホール):シアターホールの多機能性を活かした舞台作品を創作し上演。作品には仙台を拠点に活動する和太鼓グループ「Atoa.」をはじめ、同じく仙台にゆかりのある他ジャンルの実演家も招聘し、分野を超えた実演芸術のコラボレーションを実現。出演:Atoa.、能楽師 津村禮次郎(観世流緑泉会代表)、ダンサー 森山開次。</p> <p>⑩ライブ文学館vol.20「ブラザー軒」の詩人 菅原克己の詩を歌う(3/2 シアターホール):岩沼市出身の詩人、故・菅原克己をテーマに、佐久間順平による歌と音楽、在仙ピアニストの演奏と俳優による詩の朗読ほかで構成。</p> <p><人材養成事業></p> <p>⑪演劇による震災伝承事業「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語～」(1月 交流ホール):仙台の東部沿岸部地域の歴史に基づく物語や伝承を、公募による調査研究チームが収集、演劇作品として上演する。</p> <p>⑫高校演劇部のためのステップアップ・ワークショップ(通年 交流ホール等):演劇を通じて高校生の交流の場をつくることで、次代を担う人材育成を目指す。照明や音響、身体表現や演劇基礎トレーニング等を実践的に学ぶ。</p> <p><その他></p> <p>⑬青年文化センター事業評価(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の評価を行い、事業運営を改善していくためのシステムを整えていく。</p>						

9	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	1,621	271	受講料等 10 コピー料収入 261
<p>中期経営計画をふまえ、地域資源等を活用しながら文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行う。実施にあたってはクラウドファンディング等による資金確保や他課との連携を継続し、安定的・効率的な運営を図る。</p> <p>①日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(11/24～25 全館):3年目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成する。各部屋の利用促進を図るため、ふだん利用しない層に足を運んでもらえるような企画を用意する。公募ステージを継続させ、仙台を拠点に活動するアーティストによるプロデュース企画にも力を入れる。(再掲)</p> <p>②青年文化センター施設機能強化事業群 (1)地域連携事業(通年) 旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森(もりもり)がっこ」や、近隣施設との協働による地域に根差した施設としての役割を果たすための事業を行う。旭ヶ丘市民センターとの連携による施設見学会や「秋のファーム収穫祭」等を予定。</p> <p>(2)フリースペース活用事業(通年) 展示事業:エントランスホール等共有スペースにおいて、地域の子どもの七夕飾りや冬のイルミネーション等、季節に応じた賑わい創出を図る。 知の場所づくり(サラダ文庫):事業団関係の書籍、雑誌等の文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらう。令和元年度から継続。</p> <p>(3)諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(通年) 多彩な施設を有する当館の特長を活かし、ワークショップや作品展示等で施設機能のPRを図るとともに、利用促進を促す。</p> <p>(4)ホール活用事業(8月) 子どもたちとその保護者を対象に、舞台の裏側やホール機能を体感できる見学会を実施する。またホールを活用した新規事業について調査する。</p> <p>③コピーサービス事業(通年) 施設利用者向けのサービスを継続して実施する。</p>						
10	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	1,142	300	協賛金 300
<p>大規模改修のため施設は休館中であるが、芸術鑑賞の機会を確保するため、泉エリアを中心としたアウトリーチ公演等の開催により文化振興を図る。また、リニューアルする施設を市民に紹介する企画や、ボランティアによるピアノ弾き込みを実施し再開館の準備を行う。</p> <p>①泉エリアを中心としたアウトリーチ(6公演程度):これまで大ホールホワイエを会場に開催してきた企画を泉エリアを中心とした学校、商業施設等で実施する。施設休館のため芸術鑑賞機会が減少する同エリアの子供たちを主な対象とする。仙台銀行本店での開催及び協賛を依頼する。</p> <p>②リニューアル開館にむけたプレ企画(3月頃):リニューアルされた施設を地域住民へお披露目するため、更新された設備等を使って、近隣小学校の児童を招待したコンサートを実施する。</p> <p>③ピアノ弾き込みボランティア運営(2～3月頃):休館中のため使用されなかった大・小ホールに設置されているピアノ(5台)の弾き込みを地元ピアニストの協力を得て実施する。</p> <p>④プレイガイド事業(通年):主催・共催事業のチケット販売を臨時事務所及び令和6年2月以降は施設窓口にて行う。再開館後に施設利用者が主催する公演チケットの販売受託も再開する。</p>						
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。						
11	猿舞座のさるまわし	令和5年度中	榴岡公園 歴史民俗資料館	51	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演を3年ぶりに実施する。						
12	れきみん秋祭り2023	10/28、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	3,030	1,046	助成金 1,000
東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術といった「無形」の民俗文化、芸術文化を榴岡公園と歴史民俗資料館の館内を会場として紹介するイベント。						
13	歴史的な生活体験教室	通年	富沢遺跡保存館他	204	0	
当館の敷地や隣接地を利用して、米づくり等富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験・研究する。令和5年度は水稲栽培ではなく陸稲栽培を主とし、富沢地区での稲作の可能性を探ることを目的とする。作業は当館ボランティアスタッフ・地底の森サポーターと協働して行い、歴史的な生活体験を通して世代間の交流を図る。5月～9月の約半年間の作業(田植え・草取り・稲刈り等)を中心とする。また、収穫物を利用して、一般来館者を対象とした工作・試食体験も行う。						
14	地域交流促進事業	11月・2月	富沢遺跡保存館	218	0	
当館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、地域に根差したイベントを行う。平成30年度より指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施しており、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用等、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する。11月は「長町学びネット」とともに企画・運営を行う。2月は「仙台三校高校音楽部」のコンサートを中心に据えて実施する。地域の方々が参加しやすく、かつ地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与する。						

15	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場！”	通年	富沢遺跡保存館他	1,596	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動に加え、学校利用向けや演劇要素の強い演出も試み、事業の可能性を広げていく。狩人の演じ方や衣装に関しては、実験考古学的な手法も使い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究や演出等の検討を行う場を設ける。						
16	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	310	0	
動画配信の需要が高まっていることから、映像ならではの手法を用いて、野外展示「氷河期の森」等の展示や各種事業の記録・発信を行う。また、ワークショップ等を通して、市民協働による映像アーカイブスの蓄積・公開を続けることで、当館が目指す地域に根差したミュージアムとしての機能・役割を強化することを目的とする。令和5年度は、これまでに蓄積した写真や動画の周知に努める。						
17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	100	0	
近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根差した施設になることを目的とした事業である。平成28年度から継続。令和5年度は土器片そっくりのクッキーづくりや土器型チョコレートづくりなど、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを地域の施設や学校と連携して行う。						
18	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	1,180	300	助成金 300
新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。 3次元計測では、当年度も引き続き3次元モデルのデータの蓄積を行い、公開を目指す。また、その活用方法を開発、実践する。リビングヒストリーでは、すでに実践している施設や研究者等と情報交換を行うことを目的として、国内外の研究者を招聘するなどして、実験考古学の研究会やセミナーを開催する。						
19	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	500	0	
市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」の理念・実践の普及啓発を進めるため、市民や専門家とともに、実践的あるいは研究的視点等、様々な角度で分析、調査研究を行い、その成果を発表する。						
20	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	300	0	
施設活用の新たな手法とツールの開発、実践として、次世代や親子層の日常的な利用における課題についての調査や、定禅寺通活性化に寄与する取組についての企画・開発を行う。						
21	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,130	2,315	刊行物販売 2,315
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ① 歴史民俗資料館グッズ :昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、仙台の商店記載地図(大正14年、昭和4年、昭和8年)、大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北下絵図、昭和26年map of Sendaiの継続販売と、新規複製地図の制作販売。(支出307千円、収入700千円) ② 富沢遺跡保存館グッズ :氷河期の森で採集できるハンノキの枝やチョウセンゴウの実等で、来館の思い出となるグッズを製作し販売する。また、ボランティア会が製作した編布シリーズや松ぼっくりのリースの販売を継続する。(支出80千円、収入285千円) ③ 縄文の森広場グッズ :縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担っている。(支出100千円、収入350千円) ④ 仙台文学館グッズ :前年度までに制作し来館の記念等として人気の高いしおり・クリアフィル等を継続販売するほか、特別展に関連したグッズを制作し来館者のニーズに応える。(支出580千円、収入680千円) ⑤ メディアテークグッズ :ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売する。(支出63千円、収入300千円)						

収益事業

⑤劇都仙台2023事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施する。
 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉等、他ジャンルとの連携
 ⑤情報交流や協働

22	仙臺能	1月	日立システムズホール仙台	4,229	4,229	市負担金 2,286 入場料 1,943
能と狂言を気軽に鑑賞できる本格的なホール公演として、広く市民に能楽の魅力を伝えるため継続実施してきた「市民能楽講座」から名称変更。仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。						入場者:500人
23	舞台スタッフ・ラボ	通年	演劇工房10-BOX他	1,574	1,574	市補助金 759 受講料 165 助成金他 650
舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コース等を基本に、外部の組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら総合的な舞台スタッフの育成事業を実施。誰もが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さを体験できる機会を提供することで、人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。宮城野区文化センターとの共催により開催。						対象者:50人 観客:100人
24	10-BOX鑑賞プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	6,995	5,293	市補助金 4,993 入場料 300
①仙台・劇のまちトライアルシアター:新たなテーマを設けた創作公演、劇場以外での公演等にトライするほか、地元の演劇関係者と意見交換を行うミーティングを行う。当年度は子育て世代の表現者たちとの協働により、子育て中の家族に向けた創作公演を行う。 ②自主公演:県内外の先駆的な作品や評価の高い若手劇団の演目を上演するなどして演劇の面白さを市民に紹介する。 ③共催公演:良質な演劇鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げる。 ④10-BOX広報事業:10-BOXを拠点として、仙台圏の演劇情報を集めインターネットや紙媒体等により広く市民に発信する。						対象者:のべ1,800人
25	10-BOX開館20周年記念事業	5月・10月	演劇工房10-BOX他	5,800	800	入場料 800
令和4年度の10-BOX再整備工事により実施を延期していた開館20周年事業を行う。令和5年春の新棟完成後に利用再開となる10-BOXの新たな建物・機能について広く紹介する「内覧会」及びリニューアルオープンをPRするセレモニーを行うとともに、秋には20周年を記念して多くの人々と祝い連携する祝祭事業を行う。 ①10-BOXリニューアルオープン内覧会とセレモニー:主に利用者に向けた新設棟の内覧会を行うとともに、祝祭的なセレモニーを開催して施設の再オープンを広く市民に広報する。 ②フェスティバル:施設リニューアルと20周年の記念事業として、令和4年度に実施した「につかわ文化祭」や「せんだい卸町アートマルシェ」の手法・人材ネットワークを活用したフェスティバルを開催する。						対象者:のべ1,000人
26	演劇と表現の講座	通年	演劇工房10-BOX他	922	922	市補助金 747 受講料 175
これまでの人材育成型プログラムで蓄積してきた手法をベースとし、中高生をはじめとする若者や、これまで演劇と関わりのなかった方が演劇に親しめる機会の醸成を目指すワークショップ。						対象者:50人
27	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,671	1,671	市補助金 1,671
平成24年度から実施している「短編戯曲」を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行によって若い世代の作家の作品上演の機会を増やす。平成30年度から作品上演と作品募集をそれぞれ隔年での実施とし、令和5年度は第8回大賞作品のリーディング公演を行う。						
28	能-BOX事業	通年	能-BOX	815	815	市補助金 625 受講料 190
能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中逞晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会との共催)、「能-BOXゼミナール」等を行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓を図ってゆく。						対象者:150人
29	地域連携による演劇振興事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
①仙台市高等学校演劇祭:教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会との共催で実施するとともに、青年文化センターにて「高校演劇部のためのステップアップ・ワークショップ」(再掲)を実施する。併せて令和6年度以降の新たな支援のあり方を協議する。 ②機材貸出等による舞台芸術活動サポート:近隣小学校の学習発表会や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイス等、舞台芸術活動の支援を行う。 ③協力・協働事業:IMS磯貝メソッド仙台塾の音声学ワークショップ「声とことばを学ぶ」や、インディペンデントシアターによる「最強の一人芝居フェス INDEPENDENT」仙台公演等への事業協力を行う。						対象者:400人 「高校演劇部のためのステップアップ・ワークショップ」は8.劇場・音楽堂等機能強化推進事業に予算計上
30	共通事務	通年	演劇工房10-BOX他	1,384	286	市補助金 121 刊行物販売 165
ホームページの更新や発送、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売、次年度の事業に向けた視察や調査研究等、事業間連携活動に必要な業務を行う。						

⑥創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。

31	地下鉄駅コンサート	9/23,24、 9/30,10/1	地下鉄駅構内	1,113	1,113	市負担金 1,113
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。						

⑦土井晩翠顕彰事業						
32	土井晩翠顕彰事業	通年	—	970	970	市負担金 940 刊行物販売 30
平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行う。具体的には、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日の頃に記念のイベントを実施するとともに、晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努める。						

⑧育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
33	芸術家派遣事業	9月～2月	各学校・地域	0	0	
「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、小学校・中学校・高校（特別支援学校含む）で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。当年度は30～40か所に派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は700万円程度を見込む。						
34	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/9、10、2/4	日立システムズホール仙台	1,076	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共催により、平成27年より継続開催しており、令和5年度はピアノ、ヴァイオリン、管楽器の3部門を実施する。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上を図るとともに、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとする。						
						受講生：50人 入場者：900人

⑨出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
35	出版物の販売継続事業	通年	—	14	101	刊行物販売 101
<p>①仙台文学館刊行物販売事業：『仙日本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』等、仙台文学館セミナーの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。（支出0、収入60）</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売のほか、ウェブサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円（税別）。（支出8、収入8）</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業：事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売する。（支出0、収入3）</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物（『RE:プロジェクト通信』『5年目のRE:プロジェクト通信』）に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売する。（支出6、収入30）</p>						

⑩広報事業等						
36	広報事業	通年	—	4,840	4,840	市補助金 4,624 その他事業収入 216
仙台における文化芸術領域の動向や、地域で活動する人々を広く市民に広報・紹介するウェブメディア「まちりよく」を運営する。併せて、市民文化事業団ウェブサイトをはじめ、Twitter等のSNSも活用しながら、当事業団の主催事業や活動、運営施設の情報等の発信を行っていく。						
37	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,619	2,900	友の会会費 2,900
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当財団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等。令和6年度に向けて制度リニューアルを行う。						
						会員：約1,800人
38	事業団事業全体にかかる共通事務等	通年	—	7,603	0	
<p>①共通事務：事業全体の調整、新事業の調査・企画、チケット販売業務等を行う。</p> <p>②人材育成事業：財団職員全体の資質向上を目的とした各種研修を実施するほか、個々の職員や施設の専門性に応じた技術・能力や意欲向上を目的とした研修・勉強会等の実施支援を行う。</p>						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
令和7年に開催する第9回仙台国際音楽コンクールの準備を進める。						
39	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	6,855	6,855	市負担金 6,855
コンクール事務局の運営を行う。						
40	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	1,931	1,931	市負担金 1,931
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。						
41	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,761	1,761	市負担金 1,761
第9回コンクールの審査委員及び実施要項を確定し発表する。						

42	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	12,034	12,034	市負担金 12,034
公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクールの広報活動を行う。 第9回コンクール出場者募集に係る広報活動、印刷物作成等を行う。						
43	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	1,870	1,870	市負担金 1,870
第9回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営 ④出場者サポート:コンクール期間中の活動の企画や勉強会等 ⑤ホームステイ受入れ:意見交換会 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:第8回コンクール入賞者によるコンサート等の企画運営						
44	第8回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	日立システムズホール仙台、 東京都内他 国内各地	24,756	23,679	市負担金 15,613 入場料等 6,066 助成金 2,000
第8回コンクール優勝者の副賞として、リサイタル出演や国内オーケストラとの共演の機会を提供し、CDの制作と音楽配信を行う。また、令和6年度及び7年度に実施する副賞の準備を行う。						
45	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	仙台市内各所	6,700	4,777	市負担金 3,702 入場料等 1,075
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台の音楽文化振興を目的に、第8回コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラが共演する機会を設ける。 ①ホン・ソラン(ヴァイオリン部門第4位) 出演/宮城教育大学交響楽団定期演奏会(8/6) ②ジョンファン・キム(ピアノ部門第4位) 出演/仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団定期演奏会(11/3) ・第8回コンクール入賞者による小・中学校訪問コンサートを実施する。 ・仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、街かどコンサートを開催する。 ・第9回コンクールのPRを目的としたコンサートを企画、実施する。 						

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

46	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台	24,123	24,123	市負担金 15,232 受講料等 8,891
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・8月に夏期合宿を実施する。 ・10月に「定期演奏会」を開催する。 ・3月に「スプリングコンサート」を開催する。 						
						団員定員:122人

(4)演劇系練習施設運営事業

47	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	32,127	32,127	市補助金 27,140 使用料等 4,987
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備等を弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。 当年度は再整備工事を終えてのリニューアルオープンの年となる。利用料金の改定を行い、再整備により新設されたbox-5、6、8、9と道具倉庫、シャワー室等の貸出し準備を進め、5月中旬から貸出しを再開する。						
						収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

48	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	63,271	63,271	市受託料 63,221 受講料 50
仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能をもち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努める。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展(年3回程度) ・震災復興メモリアルや地域の魅力発信にかかるワークショップ・講座等 ・館の運営に資する情報の収集 ・紙媒体、ホームページ等による情報発信(企画展やイベントの実施報告含む) 						

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

49	市制施行134周年記念コンサート	7/3	日立システムズホール仙台	4,400	4,400	市受託料 4,400
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第8回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第5位の橘和美優を迎える。 当年度も、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 コンサートホールを会場に実施する。						
						入場者:800人

50	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	15,436	15,436	市受託料 15,436
東日本大震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータ等を整備し保管する。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催等、様々な形で利活用する。						

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)仙台文学館普及啓発事業

51	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	405	405	市補助金 5 その他 400
特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 ①特別展「いわさきちひろ展」関連:トークイベント、ワークショップ等を開催。 ②「夏休みこども文学館 えほんのひろば ささめやゆき物語」関連:トークイベントや折り紙教室等を開催。 ③企画展「石川裕人の世界」関連:リーディングイベント等を開催。 ④企画展「文学の記憶」関連:講演会等を開催。						
52	ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い	6/3	仙台文学館	470	470	市補助金 470
4年ぶりに当日吟行の形式で開催。選者の講評も行う。コロナ前は参加申込不要としていたが、感染対策として、参加希望者は申込制にして、人数制限を行う。						
53	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,679	2,679	市補助金 230 受講料 2,380 その他 69
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講。開催にあたっては、安心して受講してもらえるよう、コロナ対策を徹底する。 ①佐伯一麦エッセイ講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回の開催を予定。 ②佐伯一麦北根ダイアログ:館長の佐伯一麦と各分野で活躍するゲストとの対談。 ③仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催する。						
54	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通じた調べ学習への協力等を随時行っていく。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行う。						
55	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センター等に学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。						
56	情報誌の発行	通年	—	1,160	1,160	市補助金 1,160
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。						
57	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。コロナ禍で部屋自体は閉室しているが、情報コーナーの一部での展開を継続する。文学館の展示観覧は難しい小さな子どもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替え等も行い活性化を図っていく。						
58	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行等を実施。						
59	出版物等の販売	通年	—	613	613	市補助金 299 刊行物販売 314
佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』のほか、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1) せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

60	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	21,476	21,476	市補助金 20,000 助成金 1,476
優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプロGRESS」等の事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。						
61	展覧会事業	通年	メディアテーク	17,000	17,000	市補助金 7,000 入場料 1,000 助成金 9,000
展覧会「河原へ石をもっていく話(仮)」を開催する。現在、再開中の仙台市内の一地区を題材に、「戦後」というひとつの時代とともに消えゆく土地の過去を、地域ゆかりの芸術家が同時代の芸術表現を通して、市民とともに記述/表現し、展覧会としてあらわす。展覧会を通して、鑑賞者とともにその歴史やかつてそこにあった暮らし等を共有し、すでに消失したひとつの街の記憶を未来に残そうとするものである。参加作家:佐々瞬、伊達伸明						
62	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	4,080	4,080	市補助金 1,580 助成金 2,500
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。 ＜スタジオ情報発信＞ 市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働する。 ＜地域文化アーカイブ＞ 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す事業を実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信等により、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域の様々な文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。						
63	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,900	4,900	市補助金 4,500 刊行物等販売 400
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性化を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 ① バリアフリー・デザイン事業 :目や耳の不自由な方の情報アクセス支援として手話通訳・要約筆記つきの事業や、託児つき事業を行う。 ② 館長発信事業 :発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。併せて、館長の動向を伝える情報発信等も行い、より広い理解へと努める。 ③ 地域文化連携・施設活用推進 :各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリー等館全体の機能を活かしたイベントや展示、上映会等多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。 また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努めるとともに、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業企画に取り組んでいく。						
64	アーティストリサーチ	通年	メディアテーク	500	500	市補助金 500
令和6年度の展覧会へ向けて、アーティストを招聘、有識者、市民とともに、調査を開始する。						

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考	
		事業内容					入場者数等見込・備考
(単位:千円)							

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
65	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	64,771	64,771	市指定管理料 64,771
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。						
②展示事業						
66	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	270	270	市指定管理料 270
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。						
67	企画展「仙台の祭りと年中行事」	4/29~7/2	歴史民俗資料館	259	259	市指定管理料 259
正月と七夕・盆等の年中行事や神像、御札、竈神等、家々で祀る神仏、また山・鉾・屋台等をともなう都市の祭りと芸能、さらには農耕儀礼における魔除け、虫除け、託宣の行事等、様々な仙台地方の祭りや年中行事の移り変わりについて、地域の人々の祈りと暮らしの視点から考える。						

68	企画展「社交と嗜好品」(仮称)	7/15～11/12	歴史民俗資料館	890	890	市指定管理料 890
嗜好品とは栄養摂取を目的とせず、香味や刺激を得るための飲食物のことで、個人の嗜好によって消費されるだけでなく、人と人とを結びつける場でも用いられる。本展では嗜好品がもつ社会的意味に注目し、その歴史や種類、消費、文化等について、明治時代の文明開化以降の変化に注目しつつ仙台地方の例を中心に紹介する。						
69	特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・人・暮らし～」(仮称)	11/25～4/14	歴史民俗資料館	1,744	1,744	市指定管理料 1,744
仙台地方の街・人・暮らしを中心に明治時代、大正時代、昭和初め、戦後、現代における写真、絵はがき、写真帖や8ミリフィルム等に記録された映像資料を紹介し、街並みや人々の生活の移り変わりを明らかにしていく。また、写真資料や映像資料の持つ歴史的な意義についても考える。						

③普及啓発事業

70	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	84	84	市指定管理料 84
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者の様々な活動につながっていくことを目指す。</p> <p>②子ども講座(7月、1月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/5の間の6日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」、こままわし、フラフープ、ホッピング等の遊びや生活用具「石臼ひき」を体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室等普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/21):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>						
71	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	20	20	市指定管理料 20
1年間の資料館での事業やイベントなどについてまとめた「資料館だより」をHPで公開するほか、資料館の講座や体験学習等イベントチラシを作成し学校や関連施設に発送周知する。						
72	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習及び総合的な学習の際、年間50校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼ひき等を体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受け入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。						

④資料の収集・保管及び調査研究事業

73	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,422	1,422	市指定管理料 1,422
常設展示や企画展示に関連した、仙台地方の歴史と庶民の暮らしの様子を示す資料を収集し、迅速に適切な整理を行い、館内及び館外の収蔵庫に保管する。また、台帳のデジタル化等を進め、より容易な検索を可能にする。						
74	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,128	1,128	市指定管理料 1,128
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行する。						

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

75	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	95,919	95,919	市指定管理料 95,919
旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。						

②展示事業

76	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	12,384	12,384	市指定管理料 12,384
地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。						
77	第103回企画展「く仙台的遺跡めぐり 長町駅東遺跡」長町に操車場があったころ	4/21～7/17	富沢遺跡保存館	125	125	市指定管理料 125
発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。今回は、長町駅東遺跡の発掘調査成果の中から、近代・近現代の鉄道に関する文化財に着目し、東北最大級の操車場があった長町駅の歴史を振り返る。(ポスター・チラシの印刷は令和4年度予算にて執行済)						
78	第104回企画展「復元画から読み解く氷河期の森」(仮)	9/1～11/26	富沢遺跡保存館	231	231	市指定管理料 231
出土資料や写真資料、富沢遺跡復元画等をもとに、旧石器時代の植物や野外展示「氷河期の森」の植物を様々な観点から紹介する。						

79	特別企画展(第105回)「狩人の考古学」(仮)	1/16~3/10	富沢遺跡保存館	2,257	2,257	市指定管理料 2,257
富沢遺跡で活動した人々を探るため、旧石器時代の他地域の遺跡の出土資料や縄文時代、弥生時代、また近現代に至るまでの「狩人」たちの道具や暮らしに焦点をあてて展示を行う。						
80	第106回企画展(令和6年度)ポスター・チラシの印刷	通年	富沢遺跡保存館	138	138	市指定管理料 138
令和6年度開催の第106回企画展のポスター・チラシを作成する。						

③普及啓発事業

81	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,186	1,186	市指定管理料 1,186
<p>①地底の森フェスタ2023(10/8):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げる等の体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(2/10、3/9):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):石器づくりや使用等の旧石器時代の生活体験、保存処理、野外展示観察、企画展に関する内容等、施設の魅力を多様な観点から紹介する体験型事業として実施する。月1回程度、土・日・祝に実施。</p> <p>④利用学習事業(6月~3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による5名を対象に、1年間にわたり隔週1回学芸員が支援する活動日を設ける。各人の活動成果はまとめ、公開する。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に、展示解説や行事の際の業務補助等を行うボランティア育成を目的として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生サポーター事業を行う等、地域や大学との連携を強化する。</p> <p>⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財等を紹介する講座。</p>						
82	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会や聞き取り調査を行い、学校や地域との連携事業を進めていくきっかけとする。						

④資料の収集・保管及び調査研究事業

83	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。						
84	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	354	354	市指定管理料 354
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。						
85	野外展示の維持管理と関連調査	通年	富沢遺跡保存館	670	670	市指定管理料 670
野外展示「氷河期の森」を適切に維持管理するための調査等を行う。併せて植生検討会を開催する。						
86	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	180	180	市指定管理料 180
富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティア等による調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。						
87	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	529	529	市指定管理料 529
令和6年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。また施設長寿命化改修工事及び常設展示リニューアルに向けて、野外展示の整備と活用に関する研究会を開催するほか、展示内容や手法を検討するために職員が調査等を行う。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

88	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	52,730	52,730	市指定管理料 52,730
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						

②展示事業						
89	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,471	16,471	市指定管理料 16,471
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
90	コーナー展示	通年	縄文の森広場	65	65	市指定管理料 65
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 ①「東北の縄文遺跡-3Dでみる下ノ内浦遺跡の縄文土器-」(3/19～6/11) ②「東北の縄文遺跡」(8/1～10/15) ③「東北の縄文遺跡」(12/1～2/12) ④「東北の縄文遺跡」(3/19～)						
③普及啓発事業						
91	縄文まつり	4/29、10/21	縄文の森広場	574	574	市指定管理料 574
季節ごとに開催する自由参加イベント。春と秋の計2回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏等を実施する。また、野外コンサートを不定期で開催する。						
92	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	1,520	1,520	市指定管理料 1,520
①団体予約：子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験：来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座：「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」等、各種体験教室。 ④特別イベント：春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。						
93	縄文の森講座	12月～2月	縄文の森広場	100	100	市指定管理料 100
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。コロナの影響がある場合は、毎回公募会場30名・オンライン80名を対象とする。 ①「縄文最新研究 最前線①」(12/10) ②「縄文最新研究 最前線②」(1/28) ③「縄文最新研究 最前線③」(2/25)						
94	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	337	337	市指定管理料 337
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明等のための研修事業。						
95	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するための施設利用研修を実施。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。						
96	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,465	2,465	市指定管理料 2,465
小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施する。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもと、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。本年度の応募校は30校程度の見込み。						
97	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。						
98	野外展示「縄文の森」の多目的活用 「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	79	79	市指定管理料 79
野外展示「縄文の森」の利活用を幅を広げるために、近隣住民・小学校・地域の団体等と連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリ等を採用して育てる事業を行ってきた。当年度も、縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行う。						
④資料の収集・保管及び調査研究事業						
99	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	48	48	市指定管理料 48
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。						

100	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査等を行う。					
101	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。					
102	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	56	56	市指定管理料 56
	令和6年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。					
103	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。					

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
104	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	193,429	193,429	市指定管理料 193,429
	文学に関する展示等を実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む
②展示事業						
105	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					
106	特別展「ピエゾグラフでたどる いわさきちひろの世界」	4/29～6/11	仙台文学館	5,146	5,146	市指定管理料 5,146
	やわらかな色彩と筆致で、子どものすがたを描きつづけた画家・いわさきちひろ。あたたかさに満ちた作品の数々は、没後49年を経た現在も多くの人々に愛されている。本展では、ちひろ美術館所蔵のピエゾグラフ(精密複製画)を中心に、その絵の魅力伝えるほか、ひとりの人間としてのいわさきちひろにも着目し、ちひろが残したことばや、身のまわりの品々等も展示し、その生き方と人物像を紹介する。					
107	夏休み子ども文学館えほんのひろば「ささめやゆき物語」	7/15～9/10	仙台文学館	2,989	2,989	市指定管理料 2,989
	絵本や児童書の絵から版画、油絵など幅広く手掛ける、絵本作家で版画家のささめやゆきの展示を開催。型にとらわれない独特の画風が持ち味で、その作品は不思議な魅力を備え、見る人を惹きつけてやまない。展示では『ぼんびぼん』『あるひあるとき』等の原画や、版画作品等を紹介。会期中はコロナ禍で中止をしていた、お話を再開し、親子連れの来館につなげる。					
108	企画展「石川裕人の世界(仮称)」	10/7～12/17	仙台文学館	1,684	1,684	市指定管理料 1,684
	2012年に亡くなった、劇作家で演出家・石川裕人を紹介する展示を開催。「劇団TheaterGroup“OCT/PASS”」を主宰し、東北の演劇界を牽引した石川は、東北に根差した作品を多く手掛け、亡くなるまでに106本の戯曲を発表。晩翠わかば賞・晩翠おば賞の選考委員も務め、子どもたちの詩の表現に関心を持ち続けた。本展では多くの演劇人に慕われた石川の59年の軌跡を紹介。演劇ユニット石川組の協力のもと、石川作品のリーディングイベント等も行う。					
109	企画展「文学の記憶(仮称)」	1/20～3/17	仙台文学館	2,130	2,130	市指定管理料 2,130
	冬の企画展では、宮城・仙台で展開した文学的な出来事を、年代を追って辿る。宮城・仙台で出版された文芸誌や、そこに集った文学者の書簡、宮城・仙台が舞台となった作品等、当館資料を中心にしながら、当時の写真や地図等も用いて紹介する。					
110	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/12	仙台文学館	213	213	市指定管理料 213
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。またゆかりの文学者から寄せられた年賀状等も展示する。					
111	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,295	1,295	市指定管理料 1,295
	令和6年春の特別展の準備を進める。					

③資料の収集・保管及び調査研究事業						
112	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,610	3,610	市指定管理料 3,160
宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。						

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				備考

(単位:千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

113	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	354,290	354,290	市指定管理料 354,290
<p>令和4年度から5年間の指定管理を受け、その2年目となる当年度は次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1) 事故、火災、地震等の緊急事態に備えた体制整備と訓練等により実践的に対処できるよう、不断の見直しを行いながら取り組む。</p> <p>(2) 利用者の快適な施設利用のため、不断の目配り、気配り、懇切丁寧な対応を心がけ、要望や意見に対する対応と取り組みを継続的に行う。</p> <p>(3) 障害のある方への「合理的配慮」への取り組みを行い、障害を理由とする差別解消の推進に努める。</p> <p>(4) 長年の施設管理運営の経験を活かし、設備の保安維持のための日常的な管理・点検を強化、施設、設備の老朽化に備えた予防措置とニーズに合った設備の整備を行う等安全かつ快適、清潔な施設の維持管理を行う。</p> <p>(5) 楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポート、施設の特長を活かした大規模事業運営への参画、連携等、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨をふまえた施設運営を行う。</p> <p>(6) 質の高い管理運営業務を継続、求められる施設情報をより正確にわかりやすく伝え利便性の向上に努める。当館に親しみを感じ、施設の個性や特色を高められるような事業を積極的に実施するなど利用者拡大やサービス向上を図る。</p> <p>(7) 指定管理者として公の施設の適正な管理運営に不可欠な個人情報保護、機密の保持及び法令遵守に関する研修ほか青年文化センター内で実施の各種研修、財団全体で実施の研修、外部研修等への積極的な参加により、管理運営業務や仙台市の文化芸術事業に関わるために必要な資質の向上を図る。</p>						収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

114	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	124,945	124,945	市指定管理料 124,945
<p>「仙台市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおりの業務を行う。</p> <p>(1) 令和4年度より2年間にわたって全館を休館して行っている大規模改修に関しては、これまでの施設管理運営で培ってきた知識と経験を活かしながら、設置者、施工業者等との連携を強め改修工事がよりよい内容となるよう努めていく。また、工事完了、引渡後からは再開館後の施設貸出業務をスムーズに行えるよう準備していく。</p> <p>(2) 令和6年4月以降の施設利用にかかる予約受付、引渡後は施設の見学等の対応もあわせて行っていく。また、施設改修部分だけでなく施設運営面の改善も行うことで、休館前の稼働率を維持できるように努める。</p> <p>(3) 地域の音楽振興を目的としたアウトリーチ公演、近隣小学校児童を対象としたプレコンサート等、休館中も市民に芸術鑑賞の機会を提供できるよう努めるほか、ボランティアによるピアノ弾き込みを再開しピアノのコンディションを整える等、再開館に向けた準備を行う。</p>						

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

115	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	642,297	642,297	市指定管理料 642,297
<p>5年間の指定管理2年目となる当年度は、照明・空調改修工事を経て全館再開となる。より一層良い利用が提案できるよう努め、さらに今後の大規模改修とその後を見据え、計画的に保全を図っていく。</p> <p>人々が様々なメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化等を中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努める。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。</p>						収益事業を含む
116	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	8,540	8,540	市指定管理料 8,540
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、及び「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像等を含む様々な協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、「smtコレクション」として公開し、映像音響ライブラリーを通じて提供する。</p>						